



海峽日誌

四編

二

遠 13
2475
73



門へ遠
2475
巻 73

鎌倉見聞志四編卷之三

目録

一 禅師又曉在長別面に補

事 在実朝の四弁

一 尼清基改子上洛乃事

善之位ノ叙

一 徳舎性員乃事

茶磯榮

若如條馬内某部貴建之

修書乃更

一 實朝之古大信之任をらりて

在 洋笑乃事

在 得所之曉実物之と更

傳念見聞志曰篇卷之三



得所之曉在之長川南
補之乃更

在 実物之乃事

乃 正之流乃門外之某
乃 周利之曉之某城寺の時
乃 正之流乃門外之某

明く邊津行し津夜二膳成坊坊に
姉一玉しとて一首乃江海成津
事

妻ら〜産の神〜
事乃成成初〜

相きこわ桑右京大妻内と陸奥
小坊〜と内房成お徳与〜

ら

尼清基政子上洛乃夏

天三信十鈔

建保六年二月廿日尼清基清上

洛有由〜と〜お徳与内房と長

つま〜が同日月廿九日南山巡礼

乃望〜と〜と〜と〜

二
命一もふ可く仙洞の初有く三位
中叙可くかた一との宣下外初使
いさ三條中納言外九也家
叙位乃中ハ弓射の遠境の外
生例外一女乃叙位安徳天皇
乃初二位乃位と初元と生例
小順世と重のく仙洞ニ位
初春中一ハ事外生例
位起尼乃身一多形
咫尺も生其益を起く似
う憚り外一可外只輕く
く法寺灵佛乃志一外也
古人の事外一可外也

可く法對如多一
初春中一ハ事外生例
位起尼乃身一多形
咫尺も生其益を起く似
う憚り外一可外只輕く
く法寺灵佛乃志一外也
古人の事外一可外也

事 徳を〜にゆき給ふ

徳を〜懐を乃中

長水條長内業却貴建之

徳を乃復

同六月八日の夜白虹東乃百

虹のまを愛をききし集り星稀

きり〜が長水乃び〜西降

事乃〜虹を懐〜臨むを〜

人〜乃中〜乃所〜又同

十日卯乃刻〜乃虹〜

乃乃白〜乃上〜乃黄〜

次を赤〜乃次を〜乃の

方々紅梅の〜乃光〜乃

地〜映〜乃乃乃乃乃乃

くしんちあき一夫に海を風吹
起しし後由海に出しけり
虹霞も前代も増く皮も
物懐の夫霞をうし結人
中よりいふ世乃中かおむ
成すに前表も皆人思ふ
まのともありし事かゆ又將軍家

子も大將に任じしを在り
洋賀の神賽とゆふも
あむ乃教養いのく死か
もあきししるく度氏乃費者
成しし事一固其日成の
初く流星乾乃名も巽と
て飛海か人きし海月乃あ

先づかゞゆき見ふ人の魂とほし
事の中あつてあり同十月十日申実
船と肉人ほくほきふた大舟
心象帯外同十二日尼法基と
三品成流二流と叙きさ山像
時し右東大吏補せし將軍家
あり肉大流洋笑乃高く五
三

と長小あつたのまに庄勅乃新
夏成空一還許乃後長内
し事暇し事なる所と夏
ちくうのこもちく夏作
乃春属十二神將乃うち成神
杜長人將あつてと並け給ふ
今年神派を事申えたり

去年乃孫聖く徳を以て悔い
今に物有りて悔く作す所
夏先事り美内奇是乃思ひ成
ちし事有りて悔く事有り
美内壯年より醫王居遊乃譽
親成作を二六休暇の威力を
帰し候と云ふ事今世

若成勢有りて其事と云く
大倉御乃南好山海より一字
と建平より業跡の傳成安也
と云ふ事有りて其事と云く
年將軍家清神孫の美し
つわく事容以下事終る事

白河其間山部人其亦公氏に
切らまきく 炊宝成りて費へ疲
音ふん極く暮ひいささ事
いまご休せごけくまきく人
造乃いさか成りて後と極氏
改理乃さ海方見くも中事極
美内乃いさく見く一心安令乃

右新外百姓公氏乃嶋い成
積金くさくさく事通とくい
美地成燈か一月十二日
大倉口乃新法賞成是は名
向く斬る事師如未し雲をが
水鳥恐の誓く島池宛竟
乃光く時く人隔悔乃改

うゝはるを口智身満のさふ濃乎
に柔和乃白毫眉見く母了意
悲乃青蓮如り印く信長
乃導所と象如坊の河内梨
多句り貴達を頓免唐良表
句り施と山條右兼大吏兼内吏
婦と簾中に座一一族門業

乃もがくハ正如乃廣庇
座と法濃寺乃免大吏判官
乃村以下の法家人未結縁
局と群衆一書意冒女兼後
乃もがく神成つて心結く信長
の式と乃ハ宣説の免と乃
ことと法雨と法界と清

て災薬の垢穢と洗ふ医王居
逝乃威力の如く精色梵席
く梵風成りあぶく短編の
寿命と建ふし薬作如まの
本願心も如く万草万種の
耳部より海へくく不老不
死乃靈方逝くく説法

既中終る事後導作座成
まく下へくく布施物成
横心事山乃くく誅小暗
ま一建立く外く集法の本始
福寿乃与ひと外へくく

実解云右大長に任きり外更
若禪師云悦実解云と対立

同十二月二日將軍實知云正二位
右大臣后小侍等外明年一月
在之園八幡云にいわく洋装
有之
判友河村波也
と積むりつては乃行列随云
以乃人殺以定む洋装束
洋車乃御度云仙洞より下

一始ふ右大臣相親云乃内
随云以定む云云乃増代
乃曾士弓馬乃進者容儀表
番に三徳以定む人とな
らふ洋装の儀云以親也
う也云云に此度し案未
いま例一を右大臣乃拜候

きぬて建保七年三月其日良
辰をりしそり西乃列拜賀也
福々きききか路次乃行例乃
精ひ處多外居洞口人食
口人一員二行に侍り外乃曹
菟那系實生駒堂光中系
堂故束帯はくつ多あり

次一殿上人二條乃侍従故氏
伊豫の少将實雅申主権女
信利以之口人池邊ふのく口人
代具一多あり友自南杉澄下
光延指八人二行に列り次一
官人秦乃島峯普長下照の
敦秀次々將軍家櫛櫛毛

乃 湯車 坊門 大納之
次 徳玄 指人 皆甲冑と帯
難包 共人 控部 遠使 人 調度
熟小 今人 重箱 管長 式人 火長
二人 放免 大 人 次 調度 掛代
又 大 市 在 島 府 到 浪 下 市 の 随
去 大 人 次 新 大 納 玄 忠 清

宰相 中 將 園 道 下 二 御 大 人
かのく 前 近 法 身 次 更
順 乃 大 名 三 十 人 法 次 の 法 長
一 千 人 勝 死 と かつ 又 と 故
し え ち 乃 列 上 辻 かつ 免 者 重
あ け 法 所 乃 鷹 上 長 三 十 人
乃 免 者 重 乃 乃 免 者 重 乃 免 者 重

い... 前代... 例...
後代... 有...
後... 見物... 解...
... 場... 君...
... 物...
... 入... 内...
... 乃... 門... 入... 内...

... 右... 丈... 内...
... 遠... 例... 清... 鈕... 仲...
... 退... 出... 右...
... 小... 乃... 亭...
... 官... 前... 向... 内... 法... 及...
... 神... 長... 丈... 終... 恰... 人... 樂... 人... 以...
... 奏... 一... 珍... 成... 内... 神... 事... 成...

いさくもあつて高宮の御面河
周梨云曉もいそくに石橋の色
月洞心居く実相云は初
あつてもあつて離れく首河く迎
電はふゆく武田の御信光と初
免法云とも身は球むきとも
何者乃可高とも初と所と

雅よともあつて御面河の御
高宮の御面河の御面河の御
下は車坊く押寄も初と曉
高居居くともあつてもあつても
此法乃初列も初と云御
殿上人歩初もあつてもあつても
高宮の御面河の御面河の御

外に一介乃随来る成死せん
馳せまらば申え見物乃若涉八踏
殺れ歩傷る道備人幸中乃整
初大くこあきとあはせむいふ
事ぞし人く魂成るはひのさき
果むからあきあきあきとく
後見ゆるあはれ申河津船乃塔に

逃入く乳母子の法傳を去捨
厨と使し三浦左衛門尉
美村の息孫若尾を門下の好
多うあはれひくはとちこし送
いまあはれし今ハもやね軍の官威
とぞし一閑を軍奉行の長胤
あり早く半矢とわづら

今一舟一人今も舟に事行つと
しき一舟か刻村是と算路もと
ちか先出方へ来たは出迎ひ
乃夫古代美しと舟一と挨拶と
去く使者成帰く出る右京
大吏刻村へ来り六面村大寺
路もさきく又僕も尋常の人

乃武士成あつて長尾新六
定系公大将しき大か乃別れ
之の難賀治而以下商使大人
右具して途中阿闍梨乃坊
かもしきと又陵へ刻村が方小

らんしんすく 崔ヶ島の後らに奉に
おのれ 遠く西途中に生息あり
行合ふふゆえ 遠く南に有て
舟もたぐり 行あり 素結の神々
包もす 馳ゆり 美時く 渡りあり
美時星と 実授し 舟り 前大照
大吏 廣元 入道 光河 あり

某し 成人し 舟り 舟り 圓乃
海心事 成刻し 舟り 今日
將軍家 法出之の 祐と 舟り
舟前く 舟り 舟り 圓の舟
ゆえ 舟り 舟り 舟り 舟り
舟り 舟り 舟り 舟り 舟り
舟り 舟り 舟り 舟り 舟り
舟り 舟り 舟り 舟り 舟り

伊山乃例くほど清東帝の下
腹巻以帯一紐とすは例か
以仲服物片もくはく人
昇る人あぶりの例一
止名ふまき伊山乃内
公氏に伊管乃管成一筋
か白く物くはく清く
止名ふまき伊山乃内
公氏に伊管乃管成一筋
か白く物くはく清く

乃梅反清覚一

ゆくつあまはる

あひぬ

乃梅乃梅乃梅

其外南門とゆは
唱らぬ車
伊山と雲
乃梅乃梅乃梅

頼家実朝も成徳家三代将軍し
頼朝も同公をもち四十年と成
頼朝乃息も四歳の時父より
かゝる今年十九歳して一鶴と
びたるといふ

徳金見聞志四篇卷之三終



